

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

平成26年度新任特別支援教育コーディネーター研修会Ⅱ期

○シンポジウム 「関係機関との連携による支援」

〈大館市教育委員会研究所 所長 山本多鶴子先生〉

- ・過去・今・これからを支える「人」の情報交換と、明確な役割分担が大切である。
- ・支援体制がスムーズに行われている学校は、特別支援教育を全校で取り組んでいる、子どもを肯定的に受け止めている。
- ・小学校生活のスタートをうまくきすることで、その後の生活がスムーズになる。大館市では、5歳児健診の実施やサポートシートの作成等を通して、切れ目のない支援を目指している。

〈秋田県発達障害者センター（ふきのとう秋田） 主任 澤井ちはや先生〉

- ・ふきのとう秋田でできることは、障害を治すことではなく、子どもの状況の改善である。
- ・発達障害児・者への支援が、特別なことではなく、“当たり前なこと” にしてほしい。
- ・コミュニケーションのコツ→話を聞く（何を言いたいのか確認作業をする）
簡潔に伝える（分かってほしいことを強調する）
視覚化する（イメージできるような言葉やモデルを提示する）

〈秋田障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 堀野 修先生〉

- ・仕事は「したい仕事」（希望・好み）と「できる仕事」（実際にできるもの・できないもの）の2種類がある。本人が「できる仕事」であり、「嫌いでない仕事」を考える。適した仕事は。最低1年間続けて振り返り、初めて分かる。
- ・高等学校からの相談が増えており、ニーズや障害が多様化してきた。

〈連携のポイント〉

- 1 お互いの立ち位置を理解し、双方のできること・よいところ・強みを出し合う。
- 2 自分のもっている情報を相手に誤解のないように伝える。
- 3 支援する人は変わるので、同じような質を保っていくためには、次の人に伝えていく。

発達障害のある子どもの学習支援 PART5

○ユニバーサルデザインの授業づくり 〈授業の「まとめ」のポイント〉

- 1 次時へつなげる工夫を！
 - ・流れが分かる板書を心掛ける。 ・やりきって終わる。
- 2 1時1作業が原則！
 - ・同時処理が苦手な子どもがいるので、書くと聞く時間を区別する。
- 3 多様な情報入力ルートで確認！
 - ・全員参加型のまとめをする。（見て・考えて・声に出して）
- 4 教師がよきモデルに！
 - ・授業はチャイムで始まり、チャイムで終わる。

「わかった・できた！」が
実感できる授業を！

ユニバーサルデザインの授業づくりのキーワード

シンプル（焦点化・単純化）～本時のねらい・活動の流れを示す 一文一動作 ゴールを明確に！
ビジュアル化（視覚化）～手本・具体物を提示してイメージをもたせる 注目させたい部分は強調する！
シェア（共有化）～子どもの発言をつないでねらいに迫る 個人思考から集団思考へつなげる！

